

調 査 報 告 書

訪問調査日	平成 20 年 8 月 9 日
調査実施の時間	開始 11 時 00 分 ~ 終了 16 時 30 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム あすか (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

評価調査員の氏名	氏 名 <u>水流 涼子</u> 氏 名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職 名 <u>管理者</u> 氏 名 <u>中園 トミエ</u> ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別紙4)

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670700477号		
法人名	医療法人 愛郷会		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	鹿児島県奄美市名瀬大字西仲勝1199-11 (電話) 0997-55-7155		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年8月9日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】 (平成20年7月21日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成〇16年8月3日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算14人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	光熱費1日100円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 300円
	夕食	300円	おやつ 100円
または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(7月21日)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4	要介護2	7		
要介護3	4	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均86.4歳	最低	72歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	名瀬徳洲会病院	ふれあいクリニック
---------	---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

集落の中に位置する当ホームは、町内会の一員として地域清掃やその他の地域の行事に参加するなど「地域と共に」の理念を実践している。隣接する中学校とは、体験学習を通じて子供たちとの交流が深まっている。職員と入居者は、自由な雰囲気の中で親子のように親しくふれあいながら明るく穏やかに暮らしている。定期的開催される運営推進会議には、家族の代表者や医師・地域代表者・行政など多くの委員が出席して入居者の安全や日々の暮らしについて真剣に協議しサービスの質の向上の取組みがされているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の作成については、職員全員で検討してホーム独自の理念を作り上げ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は、評価の意義を認識し、外部評価の改善点を見直すと共に日ごろのサービスを振り返り、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的開催されており、ホームの報告についての意見交換や提案など多岐にわたって検討・協議がなされている。内容は詳細に記録し家族にも報告されている。職員は出された意見を真摯に受けとめながらサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から意見などの出やすい雰囲気作りを心がけている。家族とは介護計画と一緒に話し合ったり、毎月の報告や面会時の声かけなどにより信頼関係ができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月の奉仕作業や地域の行事には、入居者と一緒職員も参加している。地区の学校の体験学習も年に4回受け入れるなど地域との連携につとめている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で繰り返し意見を交わし、ホーム独自の理念を作り上げている。地域の中のホームとして意識が盛り込まれた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の祭りや清掃日には、職員が入居者と一緒に参加したり、学校からの体験学習を受け入れるなど、理念にある地域交流への具体的な実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や子供会の行事には必ず参加している。また、近隣の方が野菜などを届けてくれることもあり、地域との交流は深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義を理解し、評価を活かして理念の作成や地域との交流に向けた具体的な取り組みを実践している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催しその記録は家族全員に報告している。入居者の健康・災害訓練・地域との連携など活発な意見交換が行われており、ホーム職員は、その意見をサービスの質の向上に活かすように努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「あすか新聞」を届けたり、市の資料を活用しての勉強会などを行い、行政との連携は密に取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者の状況や金銭管理については毎月報告している。またホーム便りの送付や行事の報告、個々に必要な連絡など随時している。職員の異動は、ホーム便りでお知らせするほか家族の来訪時にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム便りや面会時の声かけなどにより意見を出してもらうよう働きかけている。運営推進会議で出た家族の意見を含めて、職員は、運営に活かすための話し合いをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者となじみの関係を維持するため、職員体制については職員間で話し合いを持ちながら、異動によるダメージを少なくするように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の希望を取り入れながら、積極的な受講を進めており、そのための日程調整などにも配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大島地区グループホーム連絡協議会の研修会に参加したり、他ホームへの職員派遣や、他事業所の職員を行事に招待するなどして交流を図っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を知ってもらうために、入居希望者や家族の体験入居を実施している。また入居後も徐々に馴染んでもらえるよう対応を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	島唄や踊り、島の習慣・料理など入居者に学びながら共に支えあう関係の中で楽しく暮らしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを表現できる入居者からは希望を受けとめ、困難な方については、日々の生活から思いを把握し、その思いに近づけるよう本人主体で対応するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで全職員の気づきや思いを出し合っている。また遠方にいる家族の意見も受け止めながら、本人の思いを尊重した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、4ヶ月に一回の割で担当者会議を開き、意見を出し合いながら計画の見直しをしている。状況変化に際しては、家族や関係者と話し合い、本人主体の新たな計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・墓参・季節の習慣に合わせた買い物の同行など常に身近に寄り添った支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医がそのまま継続して関わっているため、ホームとの連携を保ちながら適切な支援に努めている。入居者は、毎月1回受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望でホームでの看取りをしたことがあるが、今後の重度化や終末期の対応についてはまだ取り決めていない。	○	重度化や終末期に向けた取り組みの明確化と、家族・医師・職員など関係者による方針の共有が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、プライバシーや個人情報保護の重要性について認識しており、日ごろの言葉使いなどにもプライドを傷つけないよう気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活は全て本人のペースに合わせて進めている。一応の日課は決めているが、希望に添いながら無理のない暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望のメニューを取り入れたり、食事の準備や後片付けなど入居者ができることを一緒に楽しみながらしている。食事は、職員も同席して楽しくとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日課として一応決めているが、一人ひとりの希望を優先して、楽しめる入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの経験を活かした野菜作り、昔のおやつ作り、犬の世話など、それぞれにできる能力を発揮して、日々の役割が楽しみごとになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・買い物・行事参加など外出の支援をしている。身体的に外出の無理な入居者が楽しめるようにと、庭に高倉を作り利用している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけない自由な環境である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、昼夜想定で年2回実施している。		災害時における地域の協力体制について検討することが期待される。

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は確認している。栄養バランスについては、栄養士による指導を受けている。体調に合わせてミキサー食やおかゆで対応したり、症状によっては医師の指導を受けながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の花や木や共用空間の飾り物のほか、入居者が活ける玄関の花など、ホーム内外共に季節感がある。換気・光・音量など共用空間は、家庭的で居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や書を飾ったり、なじみのタンスや仏壇の持ち込みもある。入居者は毎朝自分の部屋を掃除して、好みの雰囲気作りをしている。職員も本人や家族と話し合いながら、落ち着いて過ごせるための工夫をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。